

提出日： 2024 年 7 月 1 日

研究促進期間制度 研究実績報告書

所属学部・研究科	身分	氏名
法学部	准教授	谷 みゆき

研究期間	以下1～4より、取得した研究機関を選択し、該当番号を右欄にご記入ください。	
	1. 2023年4月 1日 ～ 2024年3月31日	1
	2. 2023年9月 1日 ～ 2024年8月31日	
	3. 2023年4月 1日 ～ 2023年9月20日	
	4. 2023年9月21日 ～ 2024年3月31日	
活動報告	研究期間中に実施した研究活動を具体的にご記入ください。 海外活動補助費を受給した方は、海外活動の内容が分かるようにご記入ください。	
	2023年4月～6月にアデレード、同年7月～2024年3月にシドニーに滞在し、研究活動を実施した。 アデレードでは、オーストラリアの初等教育の現状についての調査を目的に、その教育内容や主眼について教育関係者や子どもを公立小学校に通わせる保護者に対するインタビューを実施した。また、オーストラリア全国で実施されている学力診断テストである NAPLAN (National Assessment Program—Literacy and Numeracy) についての教育関係者および保護者の受け止め方についても同時にヒヤリングを行った。さらに、過去の NAPLAN 出題内容や受験対策のために出版されているテキスト等の資料収集も行い、NAPLAN がどのような知識やスキルの習得状況を測るものなのか、さらに NAPLAN を実施することによる初等教育への影響についても検討した。 シドニーでは、言語活動における、英語話者と日本語話者の事態把握の傾向性についてこれまで行ってきた研究をさらに深めるため、シドニー大学にて客員研究員として研究活動を実施した。具体的には、日本で広く読まれている児童文学である『My Father's Dragon』とその日本語訳である『エルマーのぼうけん』を比較し、原文と翻訳文に違いが見られる際の要因について、日英語話者の認知的傾向性の違いの観点から分析を行った。研究期間中はシドニー大学の言語研究者に研究についての意見を求めるとともに、定期的に実施される研究会に出席し、フィールドワークを通して言語と社会、文化の関係について研究する研究者の発表を聞き、ディスカッションに参加した。	
得られた研究成果について	上記の研究活動の結果、得られた研究成果についてご記入ください。	
	アデレードの調査では、インタビューや資料収集の結果、オーストラリアの初等教育は知識の獲得よりも自由な発想を生み出す思考力により重点が置かれていることがわかった。より具体的な調査が必要ではあるが、この点は今後初等教育と言語との関係について考察を行うための足掛かりになると考えられる。また、本来オー	

	ストライアのエ育格差を是正するために導入された NAPLAN については、各校の試験結果が公開されるため、教育により関心の高い保護者が成績の良い学校に子どもを進学させることを望むこと、さらに NAPLAN の結果によって政府からの補助金が決まされる仕組みとなっており、児童の学力の高い学校ほど施設や設備の充実が進むことから、教育格差をむしろ拡大させているという否定的な意見が多く聞かれた。 シドニーでの研究に関しては、自らの研究に対してシドニー大学の教授から意見やアドバイスを得られたことが大変有益であった。特に、今回は言語について実際に使用されている地域に赴いて研究をしているフィールドワーカーに受け入れを依頼したことから、理論からではなく実際の使用から言語を観察・考察している研究者の意見を聞くことができ、これまでの研究に新しい着眼点を与えた。シドニー滞在中に研究対象としている『My Father's Dragon』と『エルマーのぼうけん』について、一文一文を対照させたデータベースを作成し、今後様々な観点でデータを得られる環境を整えることができた。当該データベースを使用して、主人公を原文と翻訳でどのように言語化しているかを比較し、日英語話者の言語活動における認知的傾向性の観点から分析した研究の成果をまとめた論文が 2024 年中に発行される予定である。また、大いにデジタル化の進んでいるシドニー大学の図書館にアクセスできたことで、日本では入手が難しい資料についても、多くを収集することができた。
今後の計画について	得られた成果を踏まえ、今後どのように研究を発展させる計画か、ご記入ください。 おもにアデレードで行ったオーストラリアの初等教育および NAPLAN についての調査は今後も継続して行いたい。特に NAPLAN についてさらなる資料収集を行い、日本で実施されている学力テスト、さらには PISA (Programme for International Student Assessment) を含めて比較検討し、教育と言語との関係について考察を深めたい。 シドニーでの研究期間中に作成したデータベースについては、今後様々な観点から日英語話者の認知的傾向性について考察する材料となることが期待され、引き続き研究を行っていく予定である。